

【評価実施概要】

事業所番号	3771400219
法人名	悠悠有限会社
事業所名	悠悠香南
所在地	高松市香南町西庄182-1 (電話) 087-815-9335
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成19年5月16日

【情報提供票より】 (平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤	5人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺造り
	1部2階建ての～1階部

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500円程度	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250円	昼食	400円
	夕食	450円	おやつ	100円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3	要介護2	1		
要介護3	2	要介護4	3		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 87.3歳	最低	74歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関


協力医療機関名	高松平和病院・しげなり病院・やまもと医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営理念の『優しい心で、さわやかな笑顔、信頼関係を大切に、一緒に楽しく』、地域の方々とのやさしい交流を、「やさしい」を基本に、管理者や職員がお互いに共有し、前向きな姿勢で取り組んでいる。利用者の一人ひとりのペースや尊厳ある暮らしを大切にしながら、職員と一緒に共有した時間を持ち、自分の役割を楽しみながら調理をしたり、天窓のある共用空間では、みんなで元気よく歌っている。また、外出では地域の人達と挨拶や会話で交流し、草花に季節を感じながら五感の刺激にもなっている。職員は、ミーティングや研修会等で質向上のため、良質なケアサービスを学び、活発な意見交換をし、改善や努力を重ねて、理念を運営に活かす実践できるように頑張っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は、改善課題について、なぜそれが必要なのかを理解して取り組み、改善している。また、良い点については、更なる向上を目指している。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりが自己評価を行い、ミーティングで話し合い、改善点を抽出している。また、自己評価を分析し、改善に向けての取り組みや姿勢がうかがえる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族代表や利用者代表、地域の自治会理事、民生委員、婦人会会長、施設管理者、市町の関係者等のメンバーで運営推進会議を2か月に1回開催している。グループホームの資料を配布し、説明して理解を得ることから始めたが、まだ数回の開催であるため、お互いの情報を交換し、それぞれの役割を認識して意見を出している。今後は、会議での活発な意見の反映や、サービス向上に活かせる積極的な会議の運営に期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	平成12年開設当初からの利用者が多く、年数が経過して認知症が進行したり、身体機能も低下しているが、職員は日常の生活状況を把握して、利用者の変化に対応し家族に報告している。家族からの意見や苦情等は、面会時に直接話しあったり、行事や連絡会等、機会あるごとに話し合いの場を作っている。また、その都度、職員は共有し、改善や解決に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会や、婦人会、ボランティアの訪問を受け、レクリエーションや話し相手等で利用者は楽しい時間を共有したり、避難訓練や防火訓練等では地元の人達も参加し、協力を得ている。職員も地域の清掃等に参加する等、地域との連携や交流に努力をしているが、今後は、利用者も一緒に地域行事へ参加して、交流の機会を増やし、連携を深めていくことを期待したい。

※  は、重点項目。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は、『やさしい心、さわやかな笑顔、信頼関係を大切に、一緒に楽しく』、そして、地域の方々とやさしい交流と「やさしい」を基本に、地域を意識した独自の理念である。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を実践するために、ミーティングや会議などで、全員が共有した考えを持てるように、機会あるごとに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園児の訪問や、婦人会や地域ボランティアとのレクリエーション、オカリナの演奏、話し相手等を利用者は楽しみにしている。また、職員が地元の清掃などに参加し、自治会や婦人会との交流の場を持っているが、利用者も参加したり外に出る交流の機会が望まれる。	○	地域との関係づくりにおいて、ホームに来てもらうだけでなく、地域へも出て行くことも必要であり、また、その日の入居者の状態によって、地域への活動に入居者の数人が参加したり、婦人会やボランティアの方に外出支援の協力をいただく等、工夫しながら、より一層、地域との交流を図っていくよう今後の取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、外部評価の改善項目に対しては、管理者や職員が話し合い、具体的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ数回の会議であるが、それぞれの立場で意見を出し、解決に取り組もうとしており、双方の意見を、向上に活かせるような積極的な姿勢が求められる。	○	運営推進会議は、外部の人の目を通して、事業所の取り組みや具体的な課題を話し合い、地域の理解と協力を得るための機会であり、会議の参加メンバーが、運営推進会議の意義や役割を十分に理解し、積極的に参加してもらえるよう働きかけていくことが望まれる。まだ数回の開催であるので、今後も運営推進会議を通して、地域に開かれたサービスの質の確保を図っていくことに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、市町村との連携を意識して、その他にも相談し、関わりを持つ取り組みをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態や暮らしぶり、金銭管理などを、定期的に手紙で個々に家族へ報告しており、必要時は臨時に電話等で対応している。また、面会時などの機会をとらえて、報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、意見、不満、苦情等を言ってもらえるような雰囲気づくりの配慮をしている。面会など、直接出される意見が多く、職員と共有し、運営に反映できるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所が他にもあり、職員の異動は定期的にあるが、利用者の影響を配慮し、開設以来、異動していない職員を配置している。来訪者に職員の氏名が分かりにくいので、名札をつける等の工夫が望まれる。	○	職員の名札があれば、職員の異動や新人の配置時に、氏名が分かりやすい利点がある。また、利用者や家族、来訪者にも氏名が分かりやすく、名前では呼べるので、職員の名札使用が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は、内外部とも計画的に受講して、研修報告により共有している。また、経験により、段階的に習得する研修をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同じ事務所のグループと交流し、情報交換をしている。また、職員の外部への研修会受講や、地域の連絡協議会にも参加し、情報の交換や事例検討会を実施し、サービス向上の取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が一人暮らし等で相談から利用までの期間がなく、すぐ利用になった場合が多いため、家族の面会や関係者等に来てもらうようにし、安心感を持てるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、本人の得意とすることを知り、それが活かされるように場面を作ったり、生活の知恵を話し合ったり、教わったりしながら、和やかに生活ができるように、お互いに支えあっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が、その人らしく暮らしていくために、日々の関わりの中で声をかけ、思いや希望の把握に努めている。また、把握の困難な場合は、利用者の視点に立ち、関係者で意見を出し合い検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、関係者の思いや要望、意見を聞き、話し合い、反映できるような介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、介護の評価を行い、介護計画の見直しに活かしている。また、変化が生じた場合は、本人や家族等、必要な関係者と話し合い、新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在は、県外などの身内や関係者が宿泊できるように支援しているが、その時々々に応じて、柔軟な支援ができるように考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がいる場合は、本人、家族の希望を大切にしている。また、週1回、協力医療機関の医師による往診があり、健康管理をしており、本人の状態に応じた医療を受けられるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に関する指針」があり、開設以来の利用者も多く、考えも変化していくため、本人の意向や家族の意向を、折にふれ、話し合いの場を持ち、また、かかりつけ医も交え、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所独自の「プライバシー保護の取り扱いマニュアル」を作成し、プライバシー保護の徹底や個人情報保護等、職員は適切な取り扱いをしている。また、尊厳を大切に、職員は日々の関わりの中で、言葉かけや態度等の対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の過ごし方を、職員は一人ひとりのペースを大切にしながら、希望を取り入れるようにしている。利用者に合わせていく姿勢を持ち、支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳、片付け等、職員と一緒に一人ひとりの力量に合わせた役割をしているが、利用者と職員が同じ食卓を囲み、食事の味付けや日常会話をしながら、食事を楽しく食べる支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2～3回の入浴支援をしているが、その日の体調や本人の希望に合わせて、ゆっくり入浴できる配慮をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が楽器を弾き、みんなで大声で歌ったり、習字の掲示では、自分の作品を示し、誇らしげに教えてくれたり、一人ひとりの役割、楽しみごと、気晴らし等、生活歴や力量に応じた支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の「おじぞうさん」に散歩し、地元の人に挨拶をしたり、同じ事業所の「せんねん村」に行き、庭の散歩をし、交流を持つ等、戸外に出る支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、利用者の安全確保をするため行動を見守り、目配り、気配り、声かけをして、日中鍵をかけないケアの実践に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練、防火訓練を定期的に行っており、地域の人達の参加も得られ、協力体制を作っているが、災害に備えた備品などの準備が望まれる。	○	消火器は配置され、使用方法も訓練しているが、停電等の対応で、懐中電灯の常備配置の準備が不足している。災害に備えた備品の準備、点検等、再度の災害を意識した訓練が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養のバランスを考え、栄養士が作成し、食事の摂取量や水分量は、職員が意識して関わり、記録等で一人ひとりの状態にあわせた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングが中央にあり、天窓から明るい日差しや、窓から眺める木々の緑や草花が目に入り、ゆったりとした時間が流れる居心地のよい空間である。また、台所での食事の用意をする音や臭いが食欲をそそり、生活感や季節感、五感刺激の配慮をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れた家具や小物品、仏壇を持ち込み、個別性のある居心地のよい安心できる居室になっている。		